

島原鉄道線一部区間（島原外港～加津佐間）の廃止について

平成 19 年 1 月 31 日

島原鉄道株式会社

島原鉄道（株）では、島原鉄道線（諫早～加津佐間）の一部区間である島原外港～加津佐間（35.3 km）を廃止する方針を決定しましたので、お知らせいたします。

島原鉄道は、明治 41 年 5 月 5 日創立され、明治 43 年 10 月より諫早方面から工事着工され、大正 2 年 9 月、諫早～島原湊（現南島原）間 42.3 km が竣工し営業開始されました。

昭和 18 年 7 月には、島原湊（現南島原）～加津佐間にて営業を行っていた口之津鉄道（大正 8 年創立）を吸収合併し、営業キロは現在の諫早～加津佐間 78.5 km の路線となり沿線住民の交通手段として地域発展に貢献してきました。

昭和 32 年 7 月の諫早大水害により全線に亘り鉄道施設が甚大な被害を受け 50 日間にわたる運休を余儀なくされましたが、全線復旧を果たした後は国鉄乗入れを昭和 33 年 4 月～昭和 55 年 9 月まで（長崎・佐世保・博多・小倉）行い利便性の向上を図る一方で経費節減として昭和 43 年には九州で初めてとなる列車集中制御装置導入による設備の近代化を図り、人員削減による合理化を図りました。

その後も鉄道貨物輸送の廃止、駅業務の委託化、踏切保安設備の整備等による合理化を進め、昭和 61 年度決算においては、18 年ぶりに鉄道部門の黒字化を達成しました。

しかしながら、平成 2 年 11 月より始まった雲仙普賢岳災害により平成 3 年 6 月の大規模土石流以降、幾度かの被害復旧を繰り返しましたが平成 5 年 4 月の大規模土石流により島原外港～深江間が約 4 年間に亘り不通となり列車代行バスによる代替輸送を余儀なくされました。

平成 9 年 4 月の災害復旧工事完成により、新たな観光資源としてトロッコ列車の運行を始め、利用者の増加を期待しておりましたが、少子高齢化・マイカーの普及も進み輸送人員の減少に歯止めがかからない状況が続いております。

平成 11 年度からは、ワンマン運行開始による人員の削減、経営改善による経費の節減、委託駅の無人化、現業部門の業務体系見直しによる合理化を図る一方、各種企画乗車券発売による運賃の割引、朝・夕の時間帯に於ける列車増便、JR 諫早駅での接続を考慮したダイヤ設定など利用促進を図ってきましたが輸送人員の減少により収支改善が図られない状況であります。

この様な事から、当社としては、全社的な収支改善を図る為には、特に輸送人員の減少傾向が大きい島原外港～加津佐間駅の間の鉄道事業を廃止せざるを得ないと判断いたしました。

廃止区間の代替は、バス輸送にて行うこととし、朝・夕の通勤通学時間帯に支障を来たさないよう運行し、昼間の時間帯は、現行バス路線を島原駅にて乗継を考慮した運行を行っていきます。

なお、平成 19 年 3 月 30 日（金）、鉄道事業廃止届出書を九州運輸局に提出する予定であります。

詳細につきましては、次頁以降のとおりです。

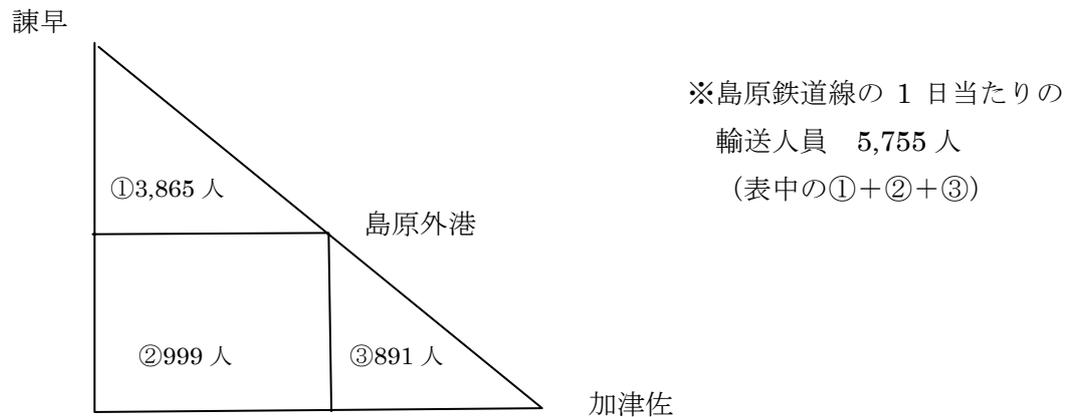
● 島原鉄道線 島原外港～加津佐間廃止概要

1. 廃止予定日 平成 20 年 4 月 1 日 (月)
2. 廃止区間 島原外港～加津佐間 (35.3km)
※ 路線図は別紙をご参照ください
3. 廃止駅 秩父が浦、安徳、瀬野深江、深江、布津新田、布津、堂崎、蒲河、有家、西有家、龍石、北有馬、常光寺前、浦田観音、原城、有馬吉川、東大屋口之津、白浜海水浴場前、加津佐の 20 駅

4. 廃止区間の運行本数

	上り	下り	合計
島原外港～加津佐間	13 本	13 本	26 本

5. 廃止による 1 日当たりの影響人員 (平成 17 年度)・・・1,890 人 (下記の表の②+③)



6. 輸送人員の推移 (全線)

【単位：千人】

		15 年度	16 年度	17 年度
輸 送 人 員	定 期	1,391	1,309	1,312
	通 勤	278	270	271
	通 学	1,113	1,039	1,041
	定 期 外	897	823	788
合 計		2,288	2,132	2,100

7. 鉄道部門及び全部門の収支状況

【単位：千円】

			15年度	16年度	17年度
鉄道部門	経常収入	定期外	455,350	426,446	409,747
		定期	274,182	258,309	259,348
		その他	88,517	78,347	77,148
		合計	818,049	763,102	746,243
	経常費用		966,563	946,554	913,710
	経常損益		△148,514	△183,452	△167,467
全部門	経常収入		2,458,910	2,330,004	2,240,795
	経常費用		2,620,979	2,560,494	2,414,597
	経常損益		△135,069	△230,490	△173,802

8. 利用促進・増収対策等

日付	項目	備考
平成9年4月1日	観光トロッコ列車運行	・運行区間 島原駅～深江駅間 ・運行期間 3月25日～11月30日
平成12年5月3日	ちびっ子島原半島体験隊	・対象者 小学生 ・利用日 土・日・祭日・春・夏・冬休み期間 ・利用対象 鉄道・バス・フェリー1日フリー乗車券
平成12年6月1日	島原半島湯遊券	・対象者 一般 ・利用対象 鉄道・バス・フェリー1日フリー乗車券 +旅館・ホテルの入浴券付
	シルバー割引定期券	・対象者 65才以上 ・種類 3ヶ月、6ヶ月定期 ・利用対象 鉄道・バス・フェリーのフリー定期券
平成14年7月25日	スクール1000	・対象者 中・高校生 ・利用日 土・日・祭日・春・夏・冬休み期間 ・利用対象 鉄道・バス・フェリー1日フリー乗車券
	のんびり1500	・対象者 一般 ・利用日 毎月第4日曜日 ・利用対象 鉄道・バス・フェリー1日フリー乗車券

※ その他 JR等の企画商品のタイアップの実施。

9. 経営合理化等

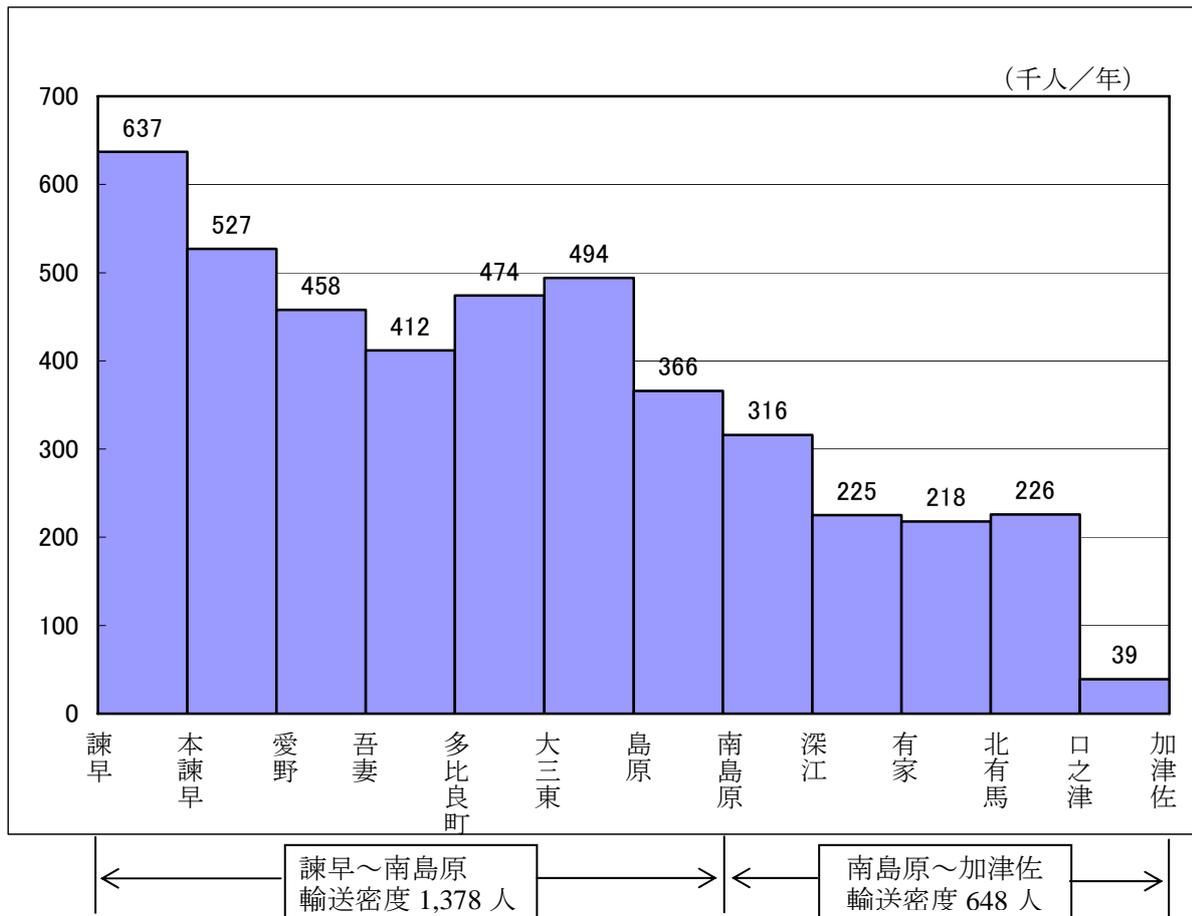
実施時期	内 容
平成 11 年度	・ 昼間の時間帯においてワンマン運転の開始
平成 12 年度	・ 南島原～加津佐間にて夜間ワンマン運転の実施 ・ 第 1 次経営改善計画の実施（経費節減を目的として 12～15 年度に実施） ・ 西郷駅、神代町、島鉄湯江、布津、西有家、原城の業務委託を廃止し無人化
平成 13 年度	・ 諫早～南島原間にて夜間ワンマン運転の実施 ・ 口之津業務委託を廃止し無人化
平成 14 年度	・ 加津佐駅の昼間時間帯の無人化により有家駅と統合した勤務体制による効率化
平成 15 年度	・ 第 2 次経営改善計画実施（主に増収に向けての改善） ・ 指令所と島原駅勤務体系統合による効率化
平成 17 年度	・ 鉄道課現業部門の組織体制見直しによる人員削減の実施

（参考）島原鉄道線の概要

1. 営業区間 諫早～加津佐間 78.5 km
2. 駅数 44 駅（JR 諫早駅含む）
3. 車両数 23 両（別途 トロッキ車両 2 両）
キハ 2500 型 15 両
キハ 20 型 8 両
4. 運転本数

	上 り	下 り	合 計	備 考
北 線	23 本	23 本	46 本	内南線への下り直通列車 12 本 (ワンマン列車 上り下り各 13 本)
南 線	13 本	13 本	26 本	内北線への上り直通列車 13 本 (ワンマン列車 上り下り各 9 本)
合 計	36 本	36 本	72 本	ワンマン率 61.1%

(参考) 駅間通過人員 (平成 17 年度実績)



※ 輸送密度：1 日 1 kmあたりの平均通過人員

(参考) 駅別乗降人員 (平成 17 年度実績)

